

分担金・拠出金の名称	【平成27年度新規計上案件】 親日派・知日派育成のための交流拡充拠出金（対日理解促進交流プログラム）	
拠出先の国際機関等名称	ASEAN事務局, 日韓学術文化青少年交流共同事業体, SAARC事務局, 中華経済研究院, 南太平洋大学, 日米教育委員会, カナダ・アジア太平洋財団, 欧州異文化学習連盟, 米州機構	
国際機関等の概要	アジア大洋州, 北米, 欧州, 中南米の各国・地域の国際機関等(ASEAN事務局, 日韓学術文化青少年交流共同事業体, SAARC事務局, 中華経済研究院, 南太平洋大学, 日米教育委員会, カナダ・アジア太平洋財団, 欧州異文化学習連盟, 米州機構)を拠出先とする。いずれの国際機関等も各国・地域と日本との間で, 人的交流や教育・文化・学術面等での協力促進に従事する機関である。	
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標		拠出の必要性及び期待する効果
1. (1) 成果目標:重要外交課題である本交流事業の遂行, 対日理解の促進 活動指標: ① 対日理解促進のための視察や体験, 意見交換等の交流プログラムの実施 ② 被招へい者・被派遣者による日本についての対外発信の実施 ③ 参加者のデータベースの整備及びネットワークの基盤作りの実施		1. 近隣諸国が積極的な海洋進出や情報発信を行うなど, 日本を取り巻く環境が一層厳しさを増す中, 日本政府は「地球儀を俯瞰する外交」を展開し, 「国際的協調主義に基づく積極的平和主義」を推進している。こうした中, 自民党外交再生戦略会議は, 「外交力強化へのアクション・プラン10」の目標を再確認するとともに「戦略的対外発信」等につき議論を行い, 「国際的協調主義に基づく積極的平和主義」の観点から日本の立場や考え方を国際社会に浸透させ, 日本の国益に資する対外発信を抜本的に強化するほか, 多様な日本の魅力や, 日本の「価値」・「倫理観」の発信を強化し, 対日理解を増進させることが必要との認識に立ち, ①日本の「正しい姿」の発信強化, ②日本の魅力の更なる発信, ③親日派・知日派の育成等につき, 日本政府に対し具体的措置を執るよう求め, 特に交流促進については, 親日派・知日派の育成のため, 「全世界との若手交流を含む招へいプログラムを充実」させることが指摘されている。
(2) 成果目標:国際機関等の意思決定における我が国のプレゼンス 活動指標: 各地域における本事業の形成と実施計画の策定に際し, 我が国の意図を確実に反映		2. 本事業では, (1)日本とアジア大洋州, 北米, 欧州, 中南米の各国・地域との間で, 将来, 活躍が期待される優秀な人材を招へい・派遣し, 我が国の政治, 社会, 歴史及び外交政策に関する理解促進を図るとともに親日派・知日派を発掘すること, また, (2)被招へい者・被派遣者に, 日本の外交姿勢や日本の魅力等を積極的に発信してもらい, 国際社会における対日イメージ向上や日本への持続的な関心の増進に寄与することを目標としている。
(3) 成果目標:国際機関等における影響力や効率的な組織・財政マネジメント 活動指標: ① 業務の経験と実績を踏まえ, 限られた予算内で本事業の趣旨に沿った各プログラムを効率的に実施 ② 監査の実施を遵守し, 適正な資金の活用を徹底		3. 同プログラムを着実に実施することにより, 国際社会における日本の外交基盤を拡充することが見込まれる。 4. なお, 本事業を実施する上で, 拠出先の国際機関等は, 複数の相手国又は相手国における複数の政府機関との調整が必要であるため, それを担うことができる各国政府機関と太いパイプを持つ国際機関等に対して拠出することにより, 効率的な連絡・調整が可能となり, 日本と各国政府機関との関係強化が見込まれる。また, 国際機関等の持つ人的交流の知見や経験を活用することにより, 円滑でより効果的な事業の実施が期待できる。
(4) 成果目標:各地域の国際機関等と日本とのネットワークの構築 活動指標: ① 国際機関等との緊密な連絡・調整の実現 ② 本事業における邦人職員の積極的な関与		
2. PDCAサイクルの確保		国際機関等に対しては, 事業目的に則し, PLANとして, 事業計画策定, 予算案策定, 関係機関との調整, DOとして, 予算の適正な執行, 実施団体選考, 事業実施監督, 関係機関との調整, CHECKとして, 事業報告書, 会計報告書の取り纏め及び事業見直しの実施。ACTIONとして, 特にフォローアップ事業における改善点を次年度の事業へ反映することが期待される。
担当課・室名	外務報道官・広報・文化組織 対日理解促進交流室	